

2年生 生活科 ○○っ子郵便局を使って生きる力の育成を

1 はじめに

子どもの実態を捉えて、子どもの課題を解決するために、新しい教育実践を創出することも考えられますが、すでに実践しているものを活用することの方が、時間的にも、指導の効果という観点からも有効だと考えます。機会を捉えて指導することが大切です。そういった意味で、2年生 生活科「○○っ子郵便局」を大いに活用しましょう。

2 ○○っ子郵便局を盛り上げるために

まずは、2年生の子どもたちが、頑張った、楽しかったと思えることが大切です。そのためには、葉書をたくさん流通させることです。

3 子どもに活動させるには

子どもたちに葉書をたくさん書きましょうという呼びかけだけでは不十分です。活動する(活動させる)ためには、活動する場所、活動する時間、活動するための物が必要です。○○っ子郵便局では子どもたちに手紙を書かせる時間が必要です。国語の帯時間を活用するのも一方法です。

4 コミュニケーション力の育成

「コミュニケーションの最小単位は一往復半です。」「思いや考えを相手に発信する。その相手はそれを受け止めて返す。返された発信者はそのことについて更に返す。」ということです。これは私が◇◇小学校に勤務していた時に三重大大学の守田先生に教わったことです。

まずは手紙を書こう。縦割り班(なかよし班)の子に日頃の思いや感謝の言葉を伝えるのもいいです。自己有用感の育成につながります。手紙が来たら返事を書こう。返事がきたら返事のお礼を書こう。

「友だちに手紙を書こう」「なかよし班の子に思いや感謝の言葉を伝えよう。」

「手紙が来たら、返事を書こう」

「お手紙ありがとう。」に続けて、思いを書こう。

「返事が来たら、もう一度、一言書こう」

「お返事ありがとう。返事をもらってうれしいです。」に続けて、思いを書こう。

5 適切な書く場面の設定が書く意欲を育む

平成28年度までの校内研修で学んだことです。○○っ子郵便局を書く場面ととらえたい。

6 自己有用感の育成

自分は役に立っているという思いを育てることです。そのために、年間を通じた縦割り班活動を行っています。お出かけピア・サポートもその一つです。上級生から2年生に(5年生からなかよし班の子に)、「○○っ子郵便局を頑張ってるね」とか、「楽しみにしているよ」とか、終わる頃には、「ありがとう」、「楽しかった」等のメッセージを2年生に葉書で伝えたい。

※雑感

2年生国語の教材に「がまくんとかえるくん」があります。

「ぼく、お手紙もらったこと ないんだもの」というセリフがあります。

「そりゃ、手紙を出さなければ、誰も手紙はくれないな。」 私の率直な感想でした。